

(JAJA) 農政ジャーナリストの会 会員様

第23回 公開シンポジウムのご案内

非常食から災害食へ

—— 「置いておく」備えではなく「使い回す」備えを——

2014年2月22日（土）13時30分から
東京ウィメンズプラザ・ホール

【企画の趣旨】

「非常食」というと、みなさんはどのような印象をお持ちだろうか。「イザというときのために、一応用意はしておくけど、たぶん自分には生涯用のないであろう食べ物」というイメージ、言い換えれば万が一の時のための保存食。

そのため、「非常食」に求められるもっとも重要な条件は「日持ちがいい」ことである。おいしさや楽しさや食べやすさなどは求められない。その代表的な非常食といえば、今も昔も乾パン（と氷砂糖）。

しかし、阪神淡路大震災や東日本大震災では、乾パンはまったくといていいほど役に立たなかったのだという。「氷砂糖の水分程度で乾パンのようにパサパサした物を食べられない」「寒い避難所で冷たい物は食べたくない」「入れ歯を持ち出せなかった人は固い物は何も食べられない」など、個人個人によって異なるさまざまな要求が突きつけられた。

1日2日のことであれば「非常時なのだからがまんすべき」という論理が通っても、これが3日4日、1週間と続くと、栄養不足で体調を崩したり、中には重篤な症状を呈したりする人も出てくる。また、被災地で生活するのは被災者だけではない。救護や援護に入った医師や消防隊員や自衛隊員たちも、飲まず食わずに近い状態で働かなければならないことになる。彼らの食事も非常食で間に合うのか……。

いま、大災害を現実的に想定して、これまでの「非常食」という概念を取り払い、本当に役に立つ災害時の食事＝災害食として捉え直すべきだという運動が広がりつつある。

今回のシンポジウムでは、日本災害食学会理事の別府茂氏の基調講演を元に、自助・共助・公助について考えてみたい。できれば、実際に役に立つ災害食の実物、あるいは、災害時に役立つ調理技術や知識についても議論し、学びたい。

食生活ジャーナリストの会 (JFJ) 公開シンポジウム

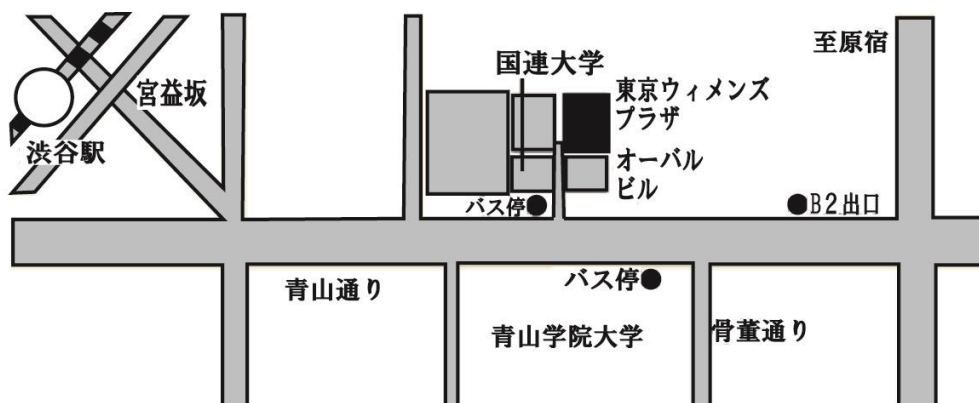
非常食から災害食へ

——「置いておく」備えではなく「使い回す」備えを——

<基調講演>	別府 茂	(日本災害食学会理事 新潟大学大学院客員教授)
<パネリスト>	沼 俊一	(板橋区危機管理室防災計画推進課係長)
	平川あずさ	(食生活ジャーナリストの会副代表幹事)
<コーディネーター>	佐藤達夫	(食生活ジャーナリストの会代表幹事)
<総合司会>	村松真貴子	(食生活ジャーナリストの会会員)

☆例年通り、Q&A の時間をたっぷりとって、会場においでのみなさまに積極的にご参加いただき、活発な意見交換をする場といたします。ご招待させていただき協賛各社の方々にも、会場において闊達なご意見をお伺いしたいと考えております。

- 日時……2014年2月22日(土)
シンポジウム開会 13:30 (受付 13:10~) 終了予定 16:30
- 場所……東京ウィメンズプラザ (B1) ホール (東京都渋谷区神宮前 5-53-67)
電話 03-5467-1711(代)
- 交通……JR 山手線・東急東横線・京王井の頭線：渋谷駅下車徒歩 12 分
地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線：表参道駅下車徒歩 7 分
☆国道 246 号線のオーバルビル前の看板が目印です。



- 参加費……農政ジャーナリストの会・会員の方は無料
(一般：1,000円 学生：500円 団体(10人以上)：800円)

●出欠席返信用●

JFJ 事務局メール jfj-shoku@t-net.ne.jp

FAX 042-554-3887 JFJ 事務局 行き

.....
食生活ジャーナリストの会(JFJ) 第23回公開シンポジウム

【非常食から災害食へ】

.....
誠にお手数ではございますが、ご出席の方は、平成26年2月7日(金)までに、
FAX またはメールにて、ご返信をお願いいたします。

農政ジャーナリストの会 様 ご出席

社名・団体名・ フリー	
所属	
(ふりがな) お名前	
住所 TEL&FAX	
メール アドレス	

【お問い合わせ・お申込み】

食生活ジャーナリストの会事務局

(メールアドレス) jfj-shoku@t-net.ne.jp (FAX) 042-554-3887